

## 3月11日の米国株式市場の下落について

トランプ政権による景気対策への期待が後退したことにより下落

2020年3月12日

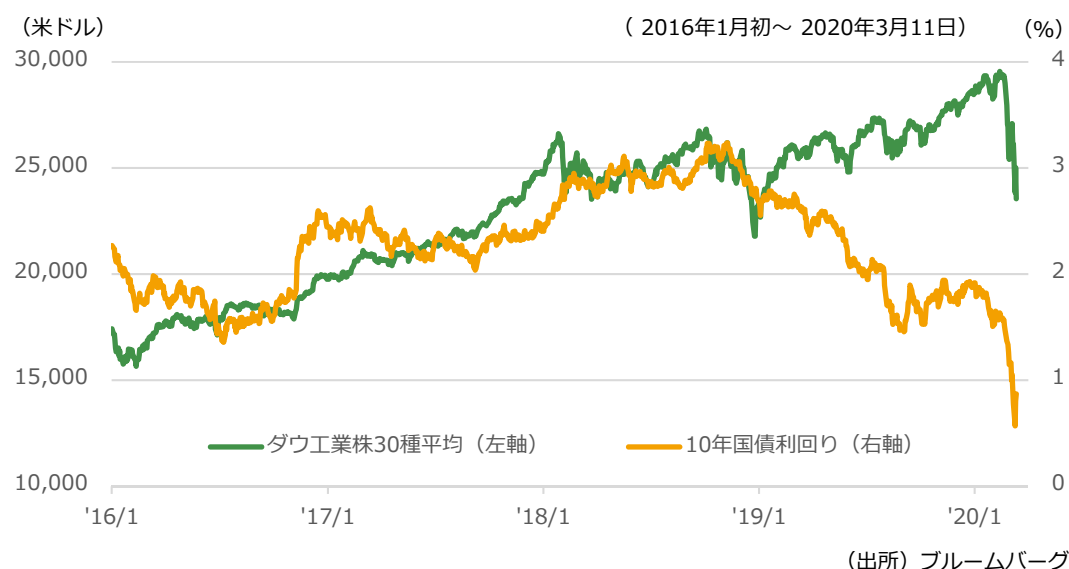
### WHOがパンデミックと表明、主要株価指数は5%内外の下落

3月11日（現地、以下同様）の米国株式市場は、NYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数がそれぞれ5.86%、4.89%、4.70%下落しました。下落の要因としては、以下のような点があげられます。

- ・ WHO（世界保健機関）が新型コロナウイルスについて「パンデミック（世界的な大流行）の状況にある」と表明したことを受け、今後への不安が一層高まったとみられること。
- ・ 9日に給与税減税や時間給労働者に対する所得補償を働きかける方針が示され、景気対策への期待感から10日の米国株式市場は大きく反発したものの、その後トランプ大統領が景気対策に関する記者会見に現れなかったため、景気対策の実現可能性が疑われ、投資家の失望を誘ったとみられること。
- ・ ISM（米サプライマネジメント協会）が発表した新型コロナウイルスに関する特別調査によると、サプライチェーンへの深刻な影響が明らかになり、景気下振れ懸念が高まったこと。

引き続き新型コロナウイルスの感染拡大には注意が必要ですが、先行して感染者が発生した中国では新規感染者数が大幅に減少しており、適切な防止策が実施されれば感染拡大の抑制は十分可能とみられます。また、感染の広がりを受けて、この日は英国で大規模な金融・財政政策が打ち出されるなど、各国の経済面での政策も強化されており、相次ぐ政策対応が当面の景気下振れを抑制することが期待されます。

#### 米国の株価と長期金利



#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。